

皇太后陛下の行啓を仰ぎ奉りて

倉 橋 惣 二 謹記

なんきいふよい天氣なのであらう。この頃ちうの雨つゞき、暴風雨の警報まで出されてゐた後である。ゆうべの星は月に先づ安心したが、けさの日光のあかるいこゝ。拭つたやうにきれいな空、うつかりなるやうなかな秋びより。佳日は實に此の日のこゝである。

講堂演習が、豫定の時間を一分もたがへず滞りなく終つて、御機嫌うるはしく御退場遊ばされた後、その主任としてほつミした私は、ひゞり講堂を出て、急ぎ足に幼稚園の方へ駆けつけた。講堂では嚴かな心づかひに緊張してゐた。幼稚園では出来るかぎりのなごやかさで御迎へ申し上げねばなるまい。子ぎも達も、平生の通りに、にこ／＼してゐてくれ。

幼稚園玄関脇には、幼児の一群が列んでお迎へ申し上げた。校長の御先導で、本校階上の便殿から、アスファルト道をおひろいでお越し遊ばされた。陛下には、先づこの一隊の小さいものゝ不揃ひな最敬禮に、御にこやかな御會釋を賜ふた。そこからは、校長の命で主事として御先導申し上げたのであるが、私はつつミ胸がこみあげて來た。此の園舎が新築せられてから、畏れ多いこゝながら、如何ばかりか今日の日をお待ち申し上げてゐたこゝであらう。震災後のお茶の水バラッ

ケ園舎への行啓の時、御幼時御在園の當時のこみをお偲び遊ばされて、御説明の私へ何くれも有り難いお言葉を賜ふたこ
きは、今も尙あり／＼に新しい貴い記憶にある。庭も狭くなりましたに申し上げるに、そうですね、藤棚もなくなりま
したねに仰せられ、惜しいこみをしましたね。あの下で遊んだのですに仰せられさへした。その後幾春秋。場所はお茶
の水から此の大塚へ移つたが、園舎も立派に出来上り、庭もいろ／＼に設備せられ、あの昔からの藤も、焦土に再生した
新芽を育て、大きく茂らせたのを、移し植ゑて棚造りしてある。此の復興の新園をに、畏れ多い望みながら、何よりも何
よりも 今日をお待ち申し上げてゐたのである。

第一室は、年少組の「木の葉の觀察」である。（指導、新庄保姆）。室の一隅には幾抱へものいろ／＼の木の葉が、太い粗
い枝のまゝ、ばつさりに立てかけてある。そこから円字形に机が排列せられて、木の葉の形を切り紙してゐるもの、青い
葉、黄い葉、紅い葉ミクレヨンを使つてゐるもの、作つた木の葉をキビガラの棒にさして、砂箱の山に林をつくつてゐ
るもの、木の葉をこり／＼に紙に貼りつけてゐるもの、白い紙の上に木の葉を置いて、こまかい金網から繪の具をふりか
け、さまざまの葉の形を白抜き繪にしてゐるもの、それ／＼のグループがせつせに働いてゐる。その幼児達に近々にお話
しかけになり、何んの葉ですかなと優しくお尋ね下さりながら、實物の教育ですな私を御顧み仰せられた。觀察の本
義を御覽下されたのであつた。

第二室も年少組で、「八百屋ミ魚屋を主題ミせる誘導保育」である。（指導、及川保姆）。一方の壁寄りに、板造りの小形
の店が二つ竝んでゐて、一つには「ヤオヤ」ミ大字の横看板が出てゐる。その隣には、バナナミ林檎を美しく毛筆で描い
た吊り看板がさげてある。字も繪も幼兒のものである。八百屋店には、棚に煙草の空罐でつくつた罐詰類が置いてあり、

下には紙づくりの野菜や果物が澤山列べてある。魚屋の方には、ドツシリした白塗の冷蔵庫までそなはつてゐて、店一ぱいに各種の魚が列べてある。一枚紙の瘦せ魚もあり、綿をつめた肥え魚もある。章魚が赤い顔をしてすわつてゐるのも面白いし、一々造主に聞いて見なければ名の分らない珍魚も可なりゐる。店頭右寄りには、鹽鮭の大きいのがぶらさげてある。夕方近い町通りのせわしないやうな空氣が漂つてゐるのも妙である。子ぎも達は、それ〴〵自分達の店のために先づ仕入れをしなければならぬ。それには築地の魚市場へゆこうか。神田の青物市場にゆこうか。子ぎも達は、そんなおつくうな遠方まで買ひ出しにゆくより、魚でも野菜でも、さつさゝ作つては店に持ち込む魔法を知つてゐる。この部屋では、今その魔法に一心不乱なところである。たゞ一つ〴〵を作るために作るのではなく、店のために作つて居りますと申し上げたなら、作らなければならぬと言はれてゝなくてゝすね〴〵仰せられた。畏れ多い言葉ではあるが、誘導保育のころを、ちゃんとお見ぬき遊ばされたのである。

第三室は年長組で、『動物園を主題とする誘導保育』である。(指導、小島保姆)。幼児達は直立の敬禮を終るに、直ぐ、さつきからの仕事のつづきを始めた。鋸でぐりぐり木を切るものがある。こつこつ釘をうちつけるものがある。その騒々しい響の中へ、子どももの型ぎつた動物の顔を實習科生が機械ミシンでスウ／＼切つてやつてゐる音や、動物の體を塗る粗い刷毛がペンキを入れた小バケツにがた／＼當る音まで交つてゐる。大きい子達で御座いまするし、少し荒いこゝをいたさせますとは申し上げながらも、聊か騒過ぎるか恐懼してゐるに、そのおい／＼ひもなく、空箱の四角い胴に、棒の脚をつけ、頸をつけ、それへ板の顔を釘で打ちつけて、虎でも、獅子でも、キリンでも、ぎ／＼出來上つてゆく工程に御興味をひかせられた。更に、斯うして作られた動物が、室の一方にしつらへてある、上野公園のよりもハーゲンベックのよりも堂々たる大動物園の檻の中に、げに百獸の王らしく納つてゐるのをほゝえませられた。又、室の出口に

近く、二人の子きもが、机一ぱいにバトロン紙全紙を擴げて、全體の騒々しさをよそに、一心に、毛筆で動物の畫を大きく描いてゐるのにも、暫く御足をきめさせられた。

その次が遊戯室で年長組の遊戯である。(指導、菊池保母、清水保母)。幼兒達は、ビヤノにつれさつさつと輪をつくつて、唱歌遊戯「お星さま」を可愛らしく一ミ踊りして、次は、二列に分れて相對して「子ころ子ころ」の競技遊戯に移つた。あのあざけない足拍子、町の子きも遊びのまゝをこつて動き、兩方から一人つゝ出て、手に力を入れてひつぱりこをする眞剣さ。一段ミ御ほゝえませ給ふたやうに拜した、そして、昔はきれいな、やさしい遊戯ばかりいたしました。これは子きものふだんの遊びのまゝを取り入れて曲譜ミ振りをつけましたもので、元氣一ぱいのもので御座りますミ申し上げたら、小さい時は何より丈夫が第一ですからねミ仰せられた。此の時、扈從陪觀の人達の方に、つゝしみ深い笑ひ聲が漏れた。見るミ、兩方から出た子きもが、手に唾をつけて、全身に力を籠め、足を踏み張つて、大仕切りに仕切り立ちをしてゐるミころである。かう油が乗つては貴い御前ミいふこも忘れてゐるのであらう。いゝ子達よミ、私は胸の中で嬉しかつた。それから「私のまね」に移り、御感興は盡きないやうに拜したが、限らないこで、遊戯室からお立ちを願つた。

廊下をもミへ歸つて、陳列室へ御先導申し上げたが、さつきから、私の氣にかゝつてゐるのは時間である。おせかせ申し上げるなミは畏れ多くて出来るこではない。しかし、小學校始め後の御巡覽の御豫定もある。幼稚園にあてられてゐる大體の豫定は、もう大分迫つてゐる。しかし、しかし、陳列室には特に御熟覽を仰ぎたいものがある。

一昨年の本校開校六十年記念式に、皇后陛下の行啓を仰いだ時には、附屬校園御巡覽を仰せがなかつたので、陳列室には保育の實際を主として、「おもちゃ店」ミ「人形の家」ミ「大きい動物」ミを陳列した。そして、その「おもちゃ店」がお目にミ

まつて、後から獻上の光榮に浴したのであつた。しかし、今回は、親しく保育の實際を御巡覽いたゞくのであるから、陳列は、舊幼稚園の思ひ出を偲ぶものを主とした。殊に私としての小さき心には、お茶の水の土地ならば、建物は變つてゐても、御在園當時を御偲び遊さるゝのよすがもあるが、場所を異にするこゝではそれが少しもない。せめても當時の園舎の古き寫眞を、出来るこゝならば其の小さい模型を作つてゞも考へたのである。寫眞は幸に數葉蒐集保存してある。模型はそれを材料とし、それに古き幼稚園職員として當時の建物を知つてゐる小西信八氏、下田たづ氏、瀬川氏等の先輩の思ひ出をたよりとし、及川保姆に製作して貰ふことにした。そして、資料の調査から、面倒な縮度計算によつて、製作にかゝつて刻苦月餘、園の外部、内部の昔のまゝを浮き出させる精巧な厚紙作りの、五十分の一大の模型が出来上つたのである。

寫眞につき御説明申し上げた次に、この模型につき御説明申し上げた。いづれも深き御感興を以て御熟覽下され、寫眞に就ては、よく保存されましたねこのお言葉を賜はり、模型に就ては、なつかしいこゝですね、思ひもかけぬ有り難いお言葉を賜つた。更に、よく出来てゐますね。うしろの方も見ませうと仰せられて、大きい臺をおめぐり遊ばされ、園の内部を見そなはせられて、こゝは先生方のお部屋でしたね。こゝは附添の部屋でしたね。こゝには色々のものがはいつてゐましたね。(古き書類や器具の入れてあつた室)なご一々御仰せられたのは、御記憶の程、感激にたえないこゝであつた。

それから、同じ室の一方に陳列して置いた「人形中心の幼兒の製作品」の、無邪氣な、可愛らしい色ざりに御目を休ませていたゞき、室中央の出口から庭へ御立ち降りを願つた。私はそこから庭全體を御覽いたゞいて、一々は御先導申し上げない豫定でゐた。しかし、明るくも暗れた庭一面には、子ぎも達が嬉々として自由に遊んでゐる。殊に右手の方には、大きな汽車があつて、それに乗り降りして「神戸ゆき」なごはしやき切つてゐる。(指導、大岡保姆)。左手の方では、ばら

の家で數人の幼兒が繪をかくて居り、小川に木の小舟を浮べて打興じてゐる。(指導、北村囑託)。いはゞ、秋の光の中に活き／＼展開せられてゐる幼兒樂園圖である。陛下には、私の御先導も待たせられず、先づ汽車遊びの方へ御近よらせられ、斯うして、したいこみをさせて貰つてゐるのですね。仕合せですね。仰せられ、きこ迄の切符かな。幼兒にお尋ね遊びされ、「ばらの家」では、こんないゝ處まで出來てゐてお言葉あり、小川の舟遊びを御覽じては、いゝこも、き仰せられた。そのお言葉の下に、子ぎも等は元氣にこゝき遊び興じてゐるのである。陛下には、皆仕合せですね。重ねて仰せられた。はい。存分いたづらもいたさせます。餘りの有り難さに、嬉しさに、私はついこんな言葉を申し上げて仕舞つたのである。

斯くて、幼稚園の御巡覽を終へさせられたのであるが、幼兒へ、保姆へ、私へいろ／＼き賜つた有り難いお言葉の中でも、最も深く感激した御言葉を謹記して此の盡さない文を終るこみにしたい。その一つは、皆しつかりして丈夫そうですね、この御言葉。次には、皆仕合せですね、この御言葉。しかも一度ならず二度ならず仰せられたのである。私は、此上もう何も一々御説明申し上げるこみはないき感激したのであつた。それから、私が、此の前お茶の水へ行啓し給ふた頃きは保育の方法も大分變りまして御座りますき申し上げたのに對して、少しの間に大層進歩したこみですね、この御言葉を賜ふたこみは、わが附屬幼稚園として、光榮之れに過ぐるを知らないのである。

しかも、此の日の何よりの有り難き光榮きが、御巡覽の始めより終りまで、絶えず、貴くも御にこやかなる御微笑を拜したこみであつたのは、言葉につくし得る限りではない。その御光りこそは、わが幼稚園を不斷に明るく輝かしく照らしつゞけるであらう永久の光りである。